

ユネスコスクール と

持続発展教育 (E S D)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

2012年1月
日本ユネスコ国内委員会



ユネスコ憲章(前文)

この憲章の当事国政府は、その国民に代わって次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならぬ神聖な義務である。政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、且つ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るためにこの伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、且つその憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

日本ユネスコ国内委員会

日本ユネスコ国内委員会(以下、国内委員会と言う)は、「ユネスコ活動に関する法律」(昭和27年法律第207号)に基づき、文部科学省内に置かれる特別の機関です。国内委員会は、我が国におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査を行う機関として、関係省庁や関係機関と協力し、ユネスコ活動の推進に取り組んでいます。国内委員会では現在、ESDを重要推進課題として捉え、その普及促進に取り組んでいます。日本ユネスコ国内委員会の取組については、下記のURLをご参照ください。

日本ユネスコ国内委員会ホームページ:

<http://www.mext.go.jp/unesco/>



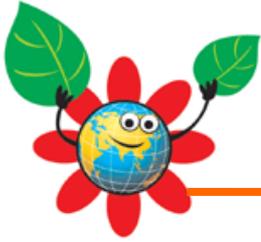


目 次

1.	持続発展教育（ESD）とは	P. 1
2.	ESDで目指すこと	P. 2
3.	世界のESDに対する取組	P. 3
4.	我が国のESDに対する取組	P. 4
5.	ESDで期待される取組例	P. 7
6.	ユネスコスクールとは	P.11
7.	ユネスコスクールに加盟すると…	P.12
8.	ユネスコスクール加盟校の声	P.14
9.	ユネスコスクール加盟方法	P.17
10.	持続可能な取組体制の構築	P.19
11.	ASPUivNetについて	P.23
12.	国内のユネスコ関係機関	P.24
13.	日本のユネスコスクール	P.25
14.	企業の皆さまへ	P.30
15.	参考教材・資料	P.31

※表紙で使用しているマスコット”DD”はユネスコにおいてUNDESD推進のために作成されたものです。

※この冊子本文で使用しているDD: The DESD MascotはインドのCentre for Environment Education (<http://www.ceeindia.org/>)において持続可能な未来の構築のための教育の推進を目的として作成されたものです。



1. 持続発展教育(ESD)とは

ESDは**E**ducation for **S**ustainable **D**evelopmentの略で日本ユネスコ国内委員会では持続可能な発展のための教育（持続発展教育）と訳しています。※1

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、

ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ESDの実施には、特に次の2つの観点が必要です。

- ✿ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ✿ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要です。



ESDの概念図

関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です



2. ESDで目指すこと

ESDの目標

- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

育みたい力

- 持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
- 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
- 代替案の思考力（批判力）
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

学び方・教え方

- 「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置づけること
- 単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとること
- 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

我が国が優先的に取り組むべき課題

先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく

以上、「我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画」より

※1 ESDは「持続可能な開発のための教育」と訳されていましたが、よりその趣旨を適切に表現するとともに、教育現場への普及を図るため、2008年の日本ユネスコ国内委員会の提言により「持続可能な開発のための教育」と訳し、「持続発展教育」と略称しています。



3. 世界のESDに対する取組

国連持続可能な発展のための教育の10年
(UNDESD : United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 1992年 国連環境開発会議（リオデジャネイロ）
アジェンダ21の中で持続可能な開発のための教育の重要性が指摘される。
- 2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ）
我が国の提案により実施計画に「ESDの10年」が盛りこまれる。
- 2002年 国連 第57回総会
2005～2014年の10年を、国連ESDの10年とし、ユネスコを主導機関に指名。
- 2005年 国連ESDの10年国際実施計画をユネスコにて策定し、国連総会にて承認
全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと
- 2009年 ESD世界会議（ボン）
ボン宣言の採択
- 2014年 国連ESDの10年最終年会合
日本で開催予定（愛知県・名古屋市／岡山市）

国際実施計画※（IIS: International Implementation Scheme）

全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと

基本的ビジョン：誰もが教育から恩恵を受ける機会、持続可能な未来の構築と現実的な社会転換のために必要な価値観、行動やライフスタイルを学習する機会がある世界

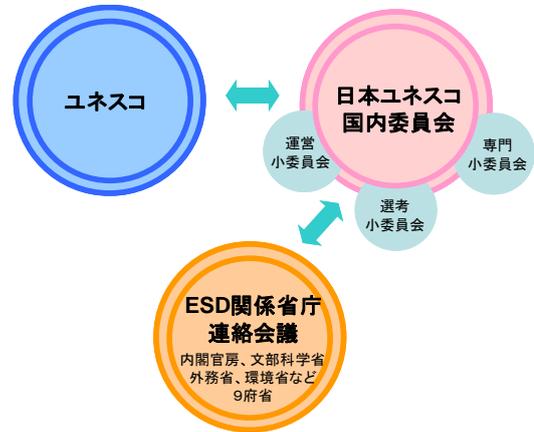


※ ユネスコがとりまとめたDESDの戦略文書



4. 我が国のESDに対する取組

わが国では、日本ユネスコ国内委員会や関係省庁が協力し、ESDの推進のため取り組んできました。2006年には内閣官房に設置されたESD関係省庁連絡会議が、わが国におけるESDの実施計画を策定し、同計画に基づいて様々な関係者と連携し、ESDを推進しています。



わが国のESDの推進体制

国内のうごき

- 2005年 ESD関係省庁連絡会議の設置
- 2006年 ESD国内実施計画の策定
- 2008年 学習指導要領等の改訂（幼・小・中／3月公示）
教育振興基本計画の策定
ESD国際フォーラム2008を国連大学にて開催（於：国連大学）
- 2009年 学習指導要領等の改訂（高・特別支援学校／3月公示）
- 2011年 ESD国内実施計画の改訂



日本ユネスコ国内委員会

- 2003年 「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関してユネスコが策定する国際実施計画への提言
- 2007年 「持続可能な開発のための教育の10年」の更なる推進に向けたユネスコへの提言
→ 同年第34回ユネスコ総会でESD推進のための決議へ
- 2008年 持続発展教育（ESD）の普及促進のためのユネスコスクール活用について（提言）

新しい学習指導要領とE S D

2008年3月に幼稚園教育要領及び小学校・中学校の学習指導要領が、2009年3月には高等学校の学習指導要領が公示されました。この新しい学習指導要領等には、持続可能な社会の構築の観点が含まれています。教育基本法とこの新しい学習指導要領等に基づいた教育を実施することにより、E S Dの考え方に沿った教育を行うことができます。

● 小学校 総則

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

● 小学校 社会 第1 目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

● 小学校 理科 第1 目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

● 中学校 社会 地理的分野

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

● 中学校 社会 公民的分野

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

● 中学校理科 第1 分野及び第2 分野

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

● 高校 地理歴史 世界史A

現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探求し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が強調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。

● 高校 地理歴史 地理A

環境, 資源・エネルギー, 人工, 食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ, 地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ, それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。

● 高校 公民 現代社会

持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して, 現代社会に対する理解を深めさせるとともに, 現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。

教育振興基本計画とESD

2008年7月、改正教育基本法に基づき教育振興基本計画が策定されました。同計画では、ESDをわが国の教育の重要な理念の1つとして位置づけ、今後5年間に取り組むべき施策としてESDの推進を明記しています。

第1章 我が国の教育をめぐる現状と課題

(1) 我が国の教育をめぐる現状と今後の課題

我が国社会を公正で活力あるものとして持続的に発展させるためには, 我々の意識や社会の様々なシステムにおいて, 社会・経済的な持続可能性とともに, 人として他と調和して共に生きることの喜びや, そのために求められる倫理なども含めた価値を重視していくことが求められている。(略)

・地球温暖化問題をはじめ, 様々な環境問題が複雑化, 深刻化し, 環境面からの持続可能性への配慮が大きな課題となる。教育分野においても, 持続可能な社会の構築に向けた教育の理念がますます重要となる。

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

②「縦」の接続：一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現

また, ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)においては, 地球的視野で考え, 様々な課題を自らの問題として捉え, 身近なところから取り組み, 持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(「持続発展教育/ Education for Sustainable Development (ESD))が提唱されており, 2005年から2014年までの10年間は, 「国連持続発展教育の10年」と位置付けられている。地球的規模での持続可能な社会の構築は, 我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つである。

④いつでもどこでも学べる環境をつくる 【施策】

◇ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進

一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊, 貧困問題等を自らの問題として認識し, 将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について, 広く啓発活動を行うとともに, 関係府省の連携を強化し, このような教育を担う人材の育成や教育プログラムの作成・普及に取り組む。

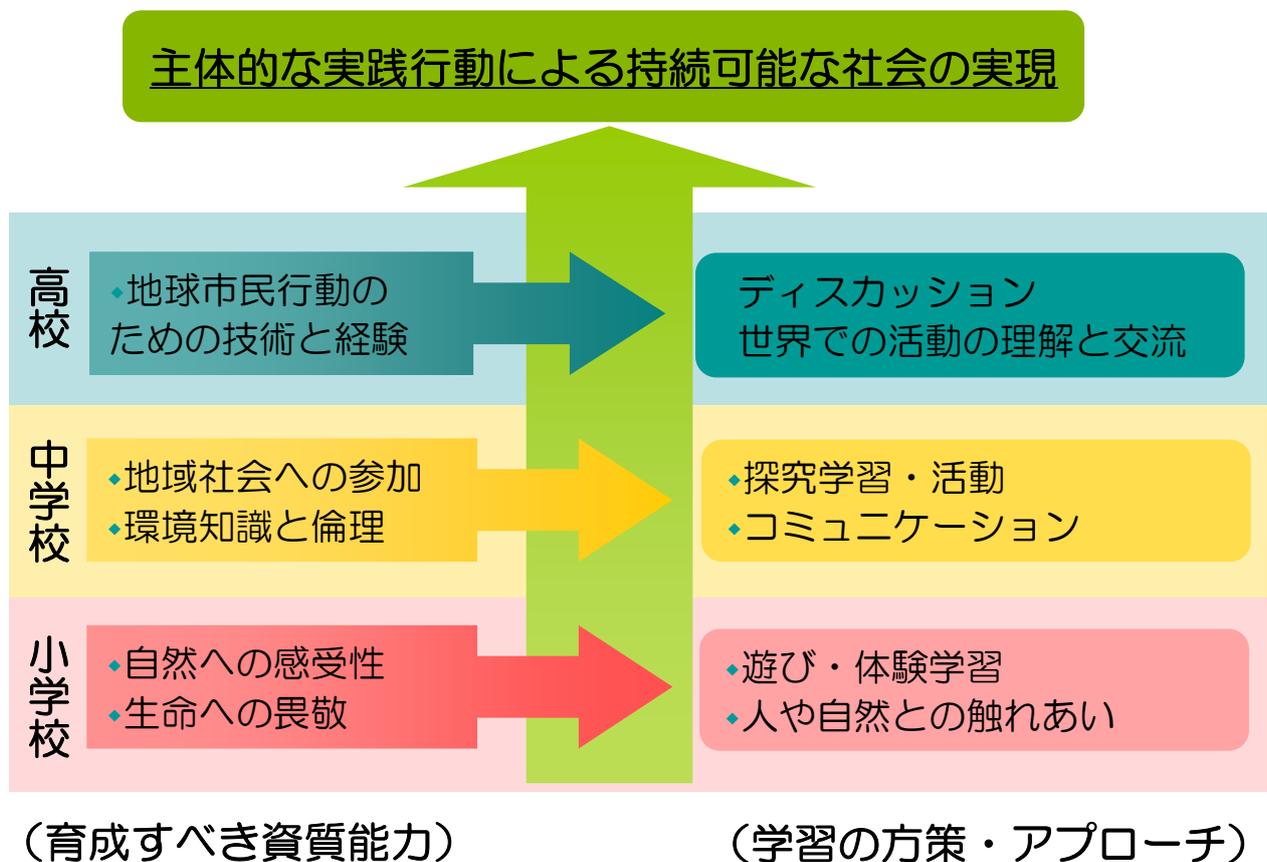
特に, ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコスクール加盟校の増加を目指し, 支援する。



5. ESDで期待される取組例

小学校・中学校・高等学校におけるESD実践の例

ESDでは小学校、中学校、高等学校等の連携・交流を通じた系統的な取組が期待されます。



面瀬小・気仙沼高との磯観察



日米小・中・高校教員研修



面瀬小・気仙沼高とのワークショップ

和歌山県田辺市立三栖小学校



三栖小学校、高雄中学校、神島高等学校合同調査「会津川水質調査3校合同プロジェクト会議」では、3校で連携をしながら、調査場所を河川の上流、中流、下流に分け、水温・pH・電気伝導率・パックテスト（COD、アンモニア、亜硝酸、リン酸）などの活動を行っています。

また調査結果を年に1度持ち寄り、勉強会を行っています。昨年度は一般の市民の方にもよびかけて発表会を行いました。パックテストで使用している試薬の種類については小学生には難しいものがあるため、神島高等学校に分析をお願いして河川の水質判定をしていただいています。



会津川の水生生物についての学習会です。水生生物の採集、採集生物の同定・採集生物のリスト作成をしているところです。水生生物から川の水質の状態を調べることができました。

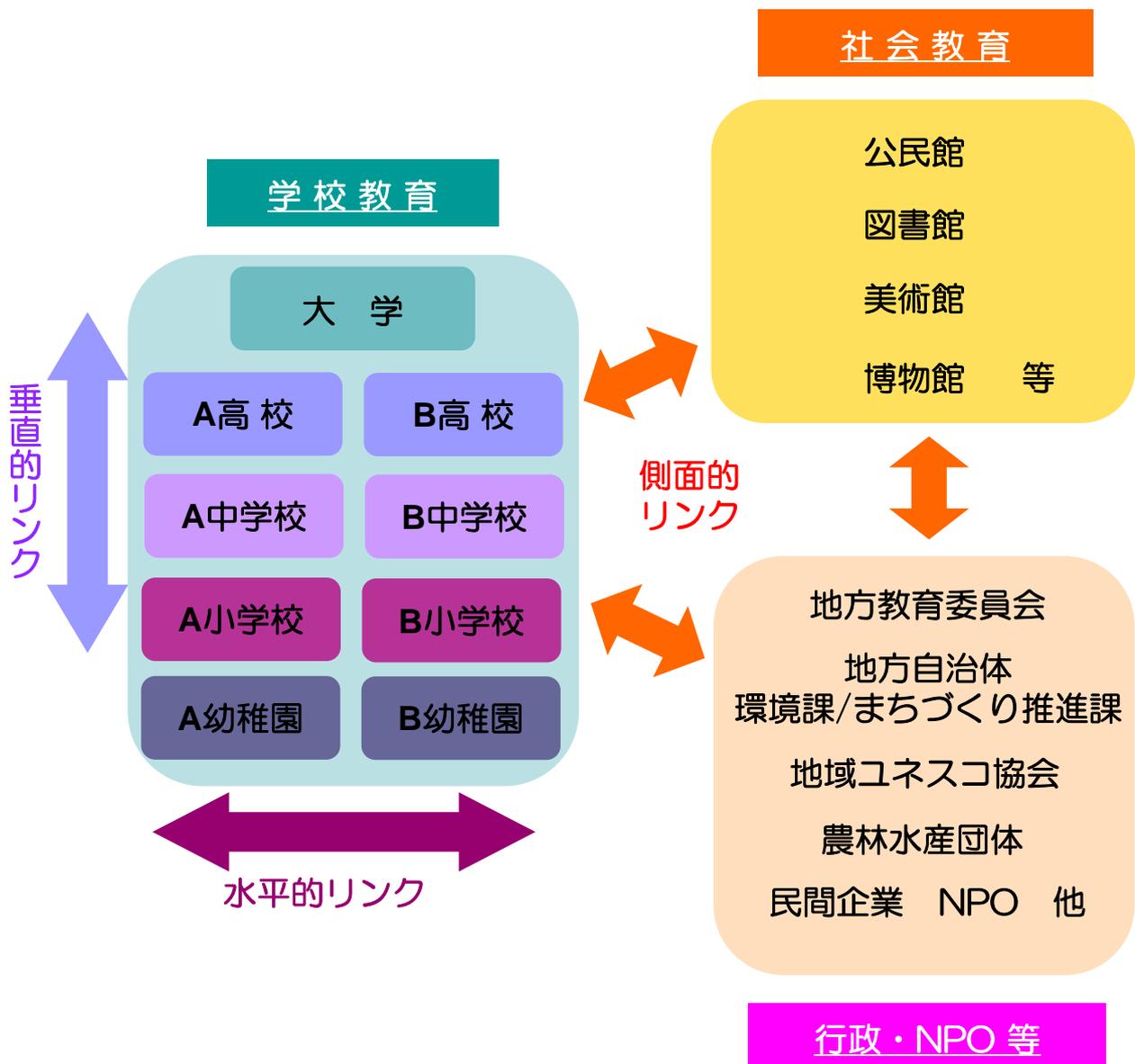
学校近くの川の水質調査だけでなく、上流での間伐体験や磯での水生生物の調査を行い地域の環境を考える取組をおこなっています。

小学校では自分たちが行える活動について考え、中学校ではさらに広い視野に立ち地域の環境を考え、高校では各校のからの調査データを分析し環境全体を考える取組を行っています。



学びのベースとなる「地域・学校・専門機関との連携」の例

E S Dでは学校教育機関、社会教育機関、行政、NPO等との連携・交流を通じた取組が期待されます。



東京都小笠原村立小笠原小学校

小笠原・父島 「島で学び、島に学び、島を学ぶ」 ～一人一人が学びを創る総合的な学習（アオウミガメの学習）～

★境浦のふ化率調査。5グループとも自分達で「3点出し」により産卵場所を見つけ、自然ふ化率を調査しました。自然の偉大さと厳しさを感じた授業です。来週は、いよいよ解剖を行います。このアオウミガメの学習から、みんなで命を学び、自然を考えます。（2010年12月4日）



ふ化率調査前の
レクチャー



(作業手順の説明)



(「3点出し」準備)



(残りがないように確認)



(卵・殻の掘り出し)



(一穴分を箱に集める)



(ふ化数調査・記録)

小笠原海洋センターとの連携

月	内容
6月	○海洋センターによるレクチャー ○白色化観察用卵の移植（大村海岸） ○飼育用卵の移植（校内ふ化箱へ）
7月	○産卵見学（大村海岸） ○ふ化箱中のふ化率調査 ○計測・入槽（海洋センター内）
8月	○子ガメの世話（海洋センター内） ※水槽清掃等：毎週土曜日（以降放流まで）
9月	○海洋センターによるレクチャー
10月	○定期計測
11月	○淡水ガメの学習（海洋センター）
12月	○ふ化率調査（境浦海岸） ○カメの解剖 ○骨格標本作り（骨の抜き出し） ○骨格標本作り（骨の接続）
1月	○骨格標本（台座作り） ○定期計測
2月	○アオウミガメ放流事業100周年シンポジウムに向けての学習・発表 ○定期計測
3月	○タグ（個体識別）付け ○放流（宮之浜海岸）

2010年度実績（協力：小笠原海洋センター）



6. ユネスコスクールとは

ユネスコスクール：UNESCO Associated Schools
ASPnet：UNESCO Associated Schools Project Network

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。世界180以上の国・地域で9000校以上のユネスコスクールがあります。（2011年6月現在）

参考：ユネスコ憲章（抜粋）

第1条 目的及び任務

1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

ユネスコスクールの活動目的

- ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと



ユネスコスクールはESDの推進拠点です。

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。



7. ユネスコスクールに加盟すると・・・

ユネスコスクール加盟のメリット

- 世界のユネスコスクールの活動情報の提供
- 世界のユネスコスクールと交流する機会の増加
- 米国、韓国、中国等海外との教員交流
- 世界の教育事情、国連機関の活動の把握
- ESDのための教材、情報の提供
- ユネスコスクールHPを通じた情報交換
- ワークショップ、研修会への参加
- 国内の関係機関との連携強化

国内の連携強化
国際交流の機会
の増大



ユネスコスクール加盟校にユネスコ本部から送られる認定証

ユネスコスクール加盟校に贈呈されるプレート

ユネスコスクール/ESD 関連事業例（平成23年度の例）

- ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金

<http://www.unesco.jp/contents/help/esd.html>

ユネスコスクール加盟校を対象とし、審査で選ばれた学校に、授業の中でESDを実践する上で必要な教材等の購入資金等の助成を行う。1校あたり10万円を上限として助成。

- 日本/ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール・ESDの普及促進を目的とした研修会、交流活動、成果物作成を実施する等、ユネスコに関連する分野において、ユネスコの事業の普及促進を行う。

<ESD 関連事業>

- ESD日米教員交流プログラム

ESDを共通のテーマとし、日米間で教員の相互交流、意見交換、共同研究を行うことにより、日米の教育交流とESDの推進を図ることを目的としたもので、日米両国の小中高等学校でESDに取り組んでいる教員を対象とした交流事業。



ユネスコスクール ホームページでは、ユネスコスクールとは何か、ESDとは何かという基本情報のほか、ESDの優良事例や教材の紹介、情報発信の場の提供など、ユネスコスクールの取組を支援するためのコンテンツを用意しています。ユネスコスクール間の情報交換等に積極的にご活用ください。



ESD教材の紹介



事例のデータベース

ユネスコスクール全国大会の開催

第3回ユネスコスクール全国大会 - 持続発展教育（ESD）研究大会「ESDの深化と拡充」 -

平成23年11月12日（土）、東京海洋大学品川キャンパスにおいて第3回ユネスコスクール全国大会が開催され、全国のユネスコスクール関係者、教職員、教育行政関係者、教育研究機関等関係者、企業関係者、学生等約400人の参加がありました。

第3回大会では、東京都江東区立八名川小学校6年生と特別講師のさかなクンによる研究授業等の後、7つのテーマ別に分かれユネスコスクールとしての実践を深めるための研究交流会が行われ、熱心な議論が繰り広げられました。その後、国立教育政策研究所による「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究」の発表が行われ、盛会のうちに第3回大会が終了しました。

なお、ユネスコスクールホームページにて資料のダウンロードや動画の視聴が可能ですので、ぜひご覧ください。





8. ユネスコスクール加盟校の声

東京都多摩市立南鶴牧小学校

☆ユネスコスクールに加盟して仲間が増えた！

・ユネスコスクールの学校とWeb会議で交流

ユネスコスクールに加盟した平成22年度は、玉川大学の協力のもと、北海道の岩見沢市立岩見沢第二小学校と鹿児島県にある私立神村学園初等部と交流することができました。リアルタイムのWeb会議で学習したことを発表しました。みなさん、声をかけてください。交流しましょう。



Web会議で交流

・大学、NPO、地域の活動グループなどの関係諸機関と交流

ユネスコスクールが推進しているESDを通して、新しく様々な研究者・実践者・教育関係者のみなさんと知り合いました。考えを交流することを通して、新たな子どもへの活動が生まれました。昨年度から、地域の農業クラブから緑のカーテンの指導を受けています。今年度は、新たに、ジャパンアートの国際交流共同制作を通してパキスタンの子どもとの交流を始めます。来年度からは、里山の自然観察会をなな山緑地の会と連携して行います。



東京農工大学と連携して
シバヤキの飼育



科学技術館と連携して
自然観察教室



楽農クラブの方を招いて
緑のカーテンづくり

・企業との交流や企業からの支援

企業と連携した子どもや教員への取り組みや、企業からの物品の支援等、様々な企業からハード・ソフト両面からの支援をいただいています。今年度は、ユネスコスクールESDアシストプロジェクトの助成金で買った天体望遠鏡を使って観望会を開催しました。また、東京芝生応援団の企業からも支援をいただきました。



東京電力駅伝チーム
走り方教室



東京ガス出張授業



ESDアシストプロジェクトの
助成金を使って

ESDで自尊感情を高める学びを

1. 本校の教育課題からESDと出会いユネスコスクールへ加盟



2. 持続可能な社会の担い手づくりという視点で教育活動全体を見直す

① 総合的な学習の時間をESDの視点で組み直す

ESDのKeyWord
さまざまな **つながり**

《ポイント》

- ・ 地域での体験活動の重視
- ・ 地域の人との**つながり**の重視



天城縦走でガイドの説明を聴く



福祉体験学習

② 各教科の時間と総合の時間のつながりを重視

《ポイント》

- ・ 各教科・道徳・特活と総合的な学習との横断的な**つながり**を重視＝ESDカレンダー

ESDのKeyWord
Think Globally **Act Locally**
地球と地域の課題の**つながり**の理解

各教科等で**地球規模**の課題を学ぶ



2月の総合発表会

地域で**行動**を起こす



職場体験 (森林管理署)

天城学習 (総合的な学習の時間) 年間計画

福祉体験学習 1年5月

デｲｯビス、介護老人保健施設等での体験を通じ、思いやりの心を育て共生の意味を考える。

天城縦走 (宿泊体験学習) 1年10月・2年5月

天城のすばらしさを体験すると共にその自然が壊れてきている現実を知り、地域の自然を持続するための方法を考える。

職場体験学習 2年10月

地域を支える仕事について体験を通して学び、地域を持続発展させるためには何が必要か考える。

修学旅行 3年5月

10年後の天城を持続発展させようをテーマに京都・奈良をモデル都市としてその魅力を探る。

地域学習 3年10月

京都・奈良の世界遺産の学習を基に、天城の魅力や課題から地域の持続発展のための提言をする。

総合発表会 全学年2月

1年間の間の成果を互いに発表し合う。またお世話になった地域の方を招待して各学年の代表による全体の発表会を行う。

3. 目指すものは 地域を「持続可能な社会」にしよう

直接体験と 地域の人との**つながり**から
学び・考え・行動する **自尊感情を高める**

『生きる力』



伊豆市長へ提言書を届ける

ユネスコスクールに加盟してより充実した活動に！

〈ユネスコ部が誕生〉

平成22年10月8日、ユネスコスクールとして承認されました。今年度4月、従来あったボランティアクラブがユネスコ部として発展的に誕生しました。部員も増えました。8月下旬に行われた高文連支部ボランティア研究大会に13名が参加、全道大会(旭川市)に2名が参加しました。



【ユネスコ部のメンバー】



【ボランティア研究大会】

★★ 主な活動 ★★

【1】ボランティア(福祉)

「東日本大震災募金活動」「緑の羽根募金活動」「特別養護老人ホームボランティア」「託児ボランティア」「町主催の『ふれあい広場』の手伝い」などです。ユネスコ部は部員以外の生徒にも呼びかけ、ボランティア活動が全校的な広がりを見せています。



【緑の羽根募金】

【2】美化・環境づくり

「花壇作り」「通学路清掃」などです。「花壇作り」は、生徒会の厚生実行委員会といっしょに作り、生徒玄関を飾りました。「通学路清掃」は、野球部、プラスバンド部、バドミントン部も参加し、清里駅から学校までゴミ拾いをしました。



【通学路清掃】



【プランターによる花壇作り】

【3】環境学習

第1学年の宿泊研修では、ラムサール条約登録湿地になった『霧多布湿原』でのフィールドワークをしました。清里町は、世界自然遺産の『知床』や濤沸湖(ラムサール条約)と隣接しています。環境学習によって「あたりまえの自然」から「大切な自然」の意識に変わりつつあります。



【インタプリターからの説明】

【4】国際交流

清里町とニュージーランドのモトエカとは友好都市提携を結んでいます。町主催のニュージーランド研修・モトエカ高校との交流があります。その研修に対して積極的な生徒が増えてきました。9月中旬にモトエカ高校の校長スコット氏が本校に来校し、交流会を実施しました。今年度もまた、2年生8名がニュージーランド研修に行きます。



【歓迎式典の様子】

【5】啓発活動

ユネスコスクール加盟以来、隔月で『清高ユネスコスクール通信』を発行し、校内での啓発活動を行っています。ユネスコ部の部員はもちろん、生徒の視野がしだいに広がりつつあります。また、本校のESDの取り組みをホームページに掲載しています。



【清高ユネスコスクール通信】



9. ユネスコスクール加盟方法

加盟資格

- 就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成機関は、国公立を問わずユネスコスクールに加盟することができます。
- ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要です。

加盟校に求められること

- 法的拘束・義務などはありませんが、各学校の積極的な活動が求められます。
- 年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要です。
- ユネスコが提案する教材が送られ、教育現場での実験・評価を依頼されることがあります。
- ユネスコやその関係機関・団体が行う様々な活動に参加する機会があります。

申請方法

- 加盟申請から、承認までの流れは次ページのとおりです。
- 必要書類
加盟申請書（様式・日本語および英語）
ユネスコスクール事務局（下記参照）へ請求もしくは
ユネスコスクールホームページより申し込み手続きをお願いします。
学校の概要が分かる資料（既存のパンフレット等・日本語および英語）

お問い合わせ先

ユネスコスクール事務局

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）※注1
〒162-8484 東京都新宿区袋町6（日本出版会館内）
TEL：03-3269-4496 FAX：03-3269-4510
E-mail：webmaster@accu.or.jp
ユネスコスクールホームページ：http://www.unesco-school.jp/



※注1：「平成23年度日本／ユネスコパートナーシップ事業」においてユネスコスクール事務局業務を委託

申請から加盟まで



※注2：学校＝小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園を指します。

※注3：ユネスコ本部での手続きに半年以上かかることがあります。



10. 持続可能な取組体制の構築

東京都江東区立八名川小学校

E S Dを継続的に進める工夫

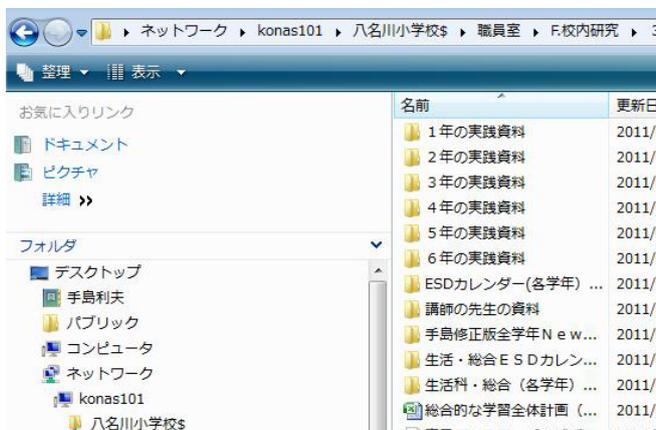
1. 組織等の工夫

校内研究の組織をそのままユネスコスクール・E S Dの推進母体としています。校長・副校長・研究主任の他、各学年と専科から1名ずつの推進委員で構成されます。

校内研究会は、研修会やワークショップの他、授業研究会を推進します。生活科・総合的な学習の時間での授業実践が中心になります。

この他、1月末に特別活動・生活・総合で「八名川まつり」を設定し、全学年の児童が、学級・学年毎にテーマを決めて、E S Dに関する取り組みを発表・参加・参観し合っています。

この時期の八名川まつりに向けて、各学年で児童の発表ができるように、教師側でも計画的な取り組みが進みます。



校内研究（E S D）用のフォルダ

2. 学年毎に研究フォルダを作成

校内のパソコンに共有フォルダを作り、そこに、年度毎に各学年の実践資料を全て入れます。

研究授業をした単元の指導案、単元展開表、本時案、授業用資料、保護者等への依頼の手紙、ワークシート、児童の作業例、学習過程にそった主な写真、ビデオ、校内発表用のプレゼン資料等を全て入れて、E S D実践の散逸をふせぎます。これが実践の継続・深化につながります。

3. そのほかの工夫

全校保護者会や学校説明会でもユネスコ・E S Dの理念を伝え、協力を得るようにします。また、教育課程編成の際、E S Dの視点からの見直しを図るようにしています。年度末に学年毎の実践を5分間のプレゼンで紹介し合い、単元全体の実践の共有化を図ります。年度末には、本年度の実践に基づいてNew! E S Dカレンダーの見直しをして、学年フォルダとともに次年度の担任に引き継ぐようにしています。全学年にNew! E S Dカレンダーができていると、次の学年も、それに基づいて実践を考えられるので何よりも重要なものだと思います。

ESDの取組と推進体制

本校では、平成11年より、文部省の研究指定を受け、全国に先駆けて「総合的な学習の時間」の研究に取り組んできました。平成21年にはユネスコスクールに加盟し、総合的な学習の時間「飛梅タイム」の活動をESDの観点から見直し、独自カリキュラムを開発、半年間の活動の成果を10月の「飛梅祭」で発表しています。



「飛梅祭」での創作能の舞台発表の様子



学校前を流れる国史跡「辰巳用水」の清掃作業

「飛梅タイム」では、**伝統文化**、**国際理解**、**環境**の3分野を中心に学習を進めています。1年生では全員が3つの分野についての基礎的な学習を行い、2・3年生では自分たちの興味・関心に基づき、希望の講座を選択し、体験活動や探究活動を行っています。



創作能の太鼓の練習風景

伝統文化の分野においては、金沢に伝わる能、加賀友禅、和太鼓、日本舞踊、加賀鳶、三味線、茶道などの講座を開設し、地域の方を講師に招き体験的に学習しています。

国際理解の分野では、世界の各地の魅力について調べたり、世界にあるさまざまな格差について学び、調べたことを発表しています。青年海外協力隊の協力を得て、「世界がもし100人の村だったら」のワークショップや、国際理解講座を設けたりしています。

環境の分野では、エネルギーというテーマのもと、原子力発電所の長所と短所についてまとめたり、節約と活用する方法について考えたりしています。

このように、地域の伝統を大切にしながら、世界にも目を向け、幅広い視点でESDに取り組んでいます。この「飛梅タイム」の活動は本校の大きな特色の一つとして大切に受け継がれています。



日米教員交流で米国教員が本校を訪問
茶道の体験に取り組む米国教員

「飛梅タイム」に加えて、生徒会活動でも学校前を流れる国史跡の辰巳用水の清掃活動や、地域のお年寄りの家の除草作業などを行っています。今年の冬には雪かきボランティアを募集し、雪が積もった日に地域のお年寄りに家に行って除雪作業をする予定です。

その他、ペットボトルのキャップ回収や東日本大震災の募金、文房具送付など、「今、自分にできることを考え行動できる」生徒を育てるための活動を継続的に行っています。



エコキャップ運動
クラスで、集めた
キャップの個数を競う

本校では、校務分掌の他に校内研究体制を組織し、教育活動全般について全教員を4部会に割り当てて研究、実践をしています。ESD推進は「金沢『絆』教育とESDの推進」部会に位置づけ、校務分掌の生徒会や総合的な学習の時間の担当者等の7名で組織しています。この部会で、ESD推進のためのESDカレンダーや教科との関連等について研究し、学校全体で取り組んでいます。また、この部会が企画して校内研修会を行い、全職員がユネスコスクールやESDについての理解を深め、共通理解を図っています。このような校内研究体制が整備されているため、教員の異動があってもESDを継続して取り組むことができるのも本校の特徴です。

ESD継続のための組織作りについて

本校は、平成21年にユネスコスクールに登録しました。「国際理解」「地域歴史文化理解」を基本テーマに設定しています。

・校内体制整備について

ユネスコスクールの主幹分掌を教務とし責任者を教務主任とすることで、本校の教育活動の中心に位置づけました。

次に生徒指導部の管轄として、各クラスから2名ずつ、計52名の生徒ユネスコ委員を選出し、各クラスのユネスコスクール活動の中心的役割を担ってもらうこととしました。このような組織形態で活動を企画することでESDを継続して実行しています。今回は、天拝山登山、サマースクール活動を例にESD継続のための組織作りについて紹介します。

生徒ユネスコ委員会組織の新設



1. 天拝山登山

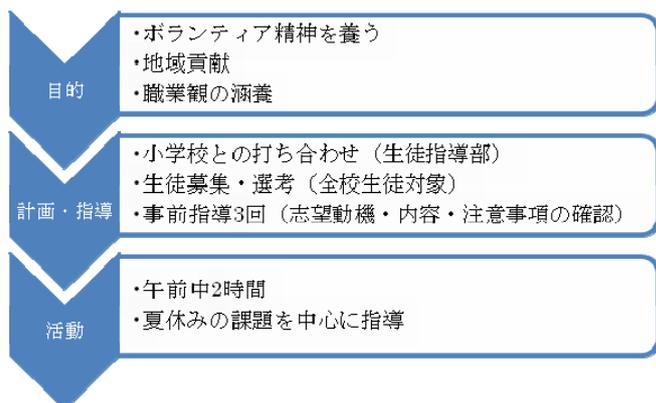
昭和55年の創立以来、30年間に渡り継続実施している行事です。天拝山の標高は258mで、所要時間は往復2時間程度です。29年目までは毎月1回実施していましたが、現在は、金曜日の午後に総合的な学習の一環として実施しています。



麓に設置している案内看板

2. サマースクール活動

夏休みの4日間に本校生徒が隣にある天拝小学校で学習指導のボランティア活動を実施しています。





11. ASPUnivNet について



ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

ASPUnivNet

都道府県別加盟大学数
(平成23年10月現在)

○北海道	1	○岩手県	1
○宮城県	2	○東京都	1
○石川県	1	○岐阜県	1
○三重県	1	○大阪府	1
○奈良県	1	○岡山県	1
○広島県	1	○徳島県	1
○福岡県	1	○大分県	1
○沖縄県	1		



ユネスコスクール支援大学間ネットワークとは

大学等高等教育機関は、ESDに関する優れた教育資源を提供できる能力を備えています。その能力を生かし、ユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの活動を支援するための大学間ネットワークが、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)です。

創設の経緯

2008年11月に仙台で開催された『ユネスコスクールの集い』で、ESDを実践するユネスコスクールが全国に広がるためには大学による全国的な支援体制を確立していくことが必要だとの考えに基づき、大学間ネットワークの構築が提唱され、発足しました。そして、同年12月に東京で開催された『ESD国際フォーラム2008』で正式にASPUnivNetの発足を国内外に示しました。

このときの参加大学は8大学でしたが、現在は16大学に広がっています。

加盟大学

北海道教育大学釧路校(ESD推進センター)、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、玉川大学教育学部、金沢大学、岐阜大学、三重大学、大阪府立大学、奈良教育大学、岡山大学、広島大学大学院教育学研究科、鳴門教育大学、九州大学大学院言語文化研究院、立命館アジア太平洋大学、沖縄キリスト教学院大学・短期大学(平成23年10月現在)

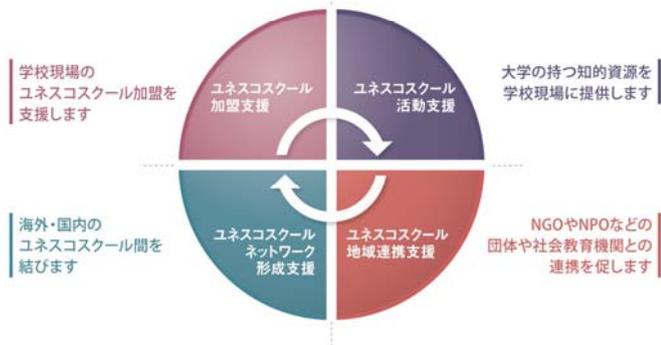
活動内容

ASPUnivNetでは、地域によって多少異なりますが、以下のような活動を行っています。

- ①学校のユネスコスクール加盟(申請や活動)を支援します。
- ②大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に提供します。
- ③国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りを支援します。
- ④地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。

ASPUnivNetにできること

- 1 学校のユネスコスクール加盟(申請や活動)を支援します。
- 2 大学の持つ知的資源をユネスコスクールの活動に提供します。
- 3 国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りを支援します。
- 4 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。



【問い合わせ先】

ASPUnivNet 事務局
〒630-8528 奈良市高畑町
奈良教育大学持続発展・文化遺産教育研究センター
Tel 0742-27-9177 Fax 0742-27-9177
E-mail jizoku@nara-edu.ac.jp



12. 国内のユネスコ関係機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は、ユネスコスクール事務局として次の業務を行っています。

ユネスコスクール加盟申請の相談、支援、窓口

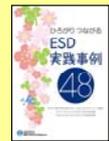
ユネスコスクールの加盟申請に関するご質問、ご相談、申請サポートを行っています。
ユネスコスクールに加盟したいけど、どうすれば??という時、お気軽にお問い合わせください。

ユネスコスクール公式ウェブサイトの運営

ユネスコスクールの概要、加盟するメリット、教材やイベント情報を発信しています。ユネスコスクールに加盟すると、学校のイベント情報などをウェブサイト上にアップすることができます。
<<http://www.unesco-school.jp>>

ESDの普及促進

- ユネスコスクール地域交流会の開催
ESDを推進している教職員の発表の場と交流の機会を作り、各地域間および地域間のネットワーク強化をはかります。
- 『ひろがりつながる ESD実践事例48』
- 『ESD教材活用ガイド』



- 環境教育パッケージ教材 PLANET <環境教育・外国語教育>
ミナとその家族が主人公の環境教育教材。アニメ、小冊子、ポスター、指導者ガイドで構成されています。『村と川』『村と森』『ごみ騒動』『防災村づくり』で、ミナたちと一緒に、自然環境と私たちの暮らし、地域での協力、問題解決に取り組むことを学びませんか? 英語の授業で使える英語版もあります。
- ESDフォトキャラバン「明日への手紙」 <国際理解教育・世界遺産教育>
- 67言語、665点の教材 <環境教育・国際理解教育・国際協力>
ACCUの国際教育協力のなかで制作された外国語教材は、日本の学校教育でも活用できる多種多様なものが揃っています。
- 講演者の派遣
先方への研修や生徒向けに、ESDの理解を深めるための講演会に講演者を派遣します。



ACCU Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
公益財団法人
ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)
東京都新宿区袋町6 日本出版会館内
TEL 03-3269-4435(代表)
FAX 03-3269-4510
E-MAIL esd@accu.or.jp
HP <http://www.accu.or.jp>

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のESD活動



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
<http://www.unesco.or.jp> E-mail: nfuj@unesco.or.jp

学校プロジェクト

- ◆私のまちのたからものコンテスト<地域学習>
ふるさとの魅力を紹介するスライドショーのコンテスト。
- ◆ユネスコ寺子屋プロジェクト<国際理解学習>
世界の現状を知り、伝え、行動するプロジェクト。
- ◆守ろう地球のたからものプロジェクト<環境学習・世界遺産学習>
環境教材・世界遺産教材を活用したプロジェクト。



ユネスコスクール事業



- ◆ユネスコスクールESDアシストプロジェクト
ユネスコスクールへの活動助成やプレートの寄贈。
- ◆ユネスコスクール研修会
ESDの実践例や、ユネスコスクールの取り組みを紹介。
- ◆ESD国際交流プログラム
高校生を海外に派遣し、ESDの取り組みについて学ぶ機会の提供。

守ろう地球のたからものプロジェクト

- ◆「白山山地」周辺地域での植樹
- ◆環境教材、世界遺産教材の寄贈
- ◆「みどりの絵」コンクール



未来遺産運動

100年後の子どもたちへ地域の文化・自然遺産を伝える運動



ユネスコ世界寺子屋運動

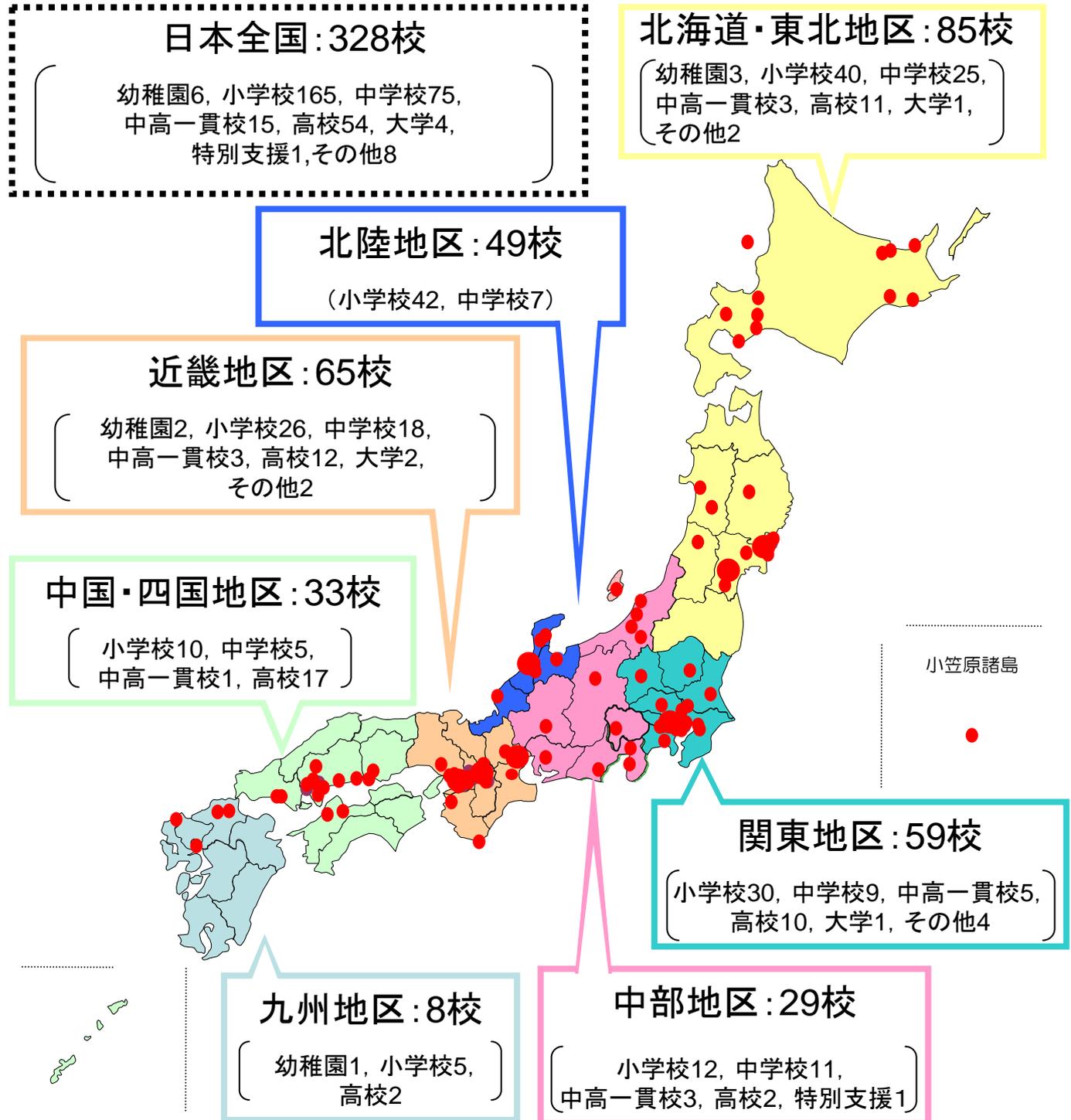
読み書きができない人たちへ教育の機会を提供する運動





13. 日本のユネスコスクール

2011年11月現在



参考: ユネスコスクール数の推移 (各年12月末現在、但し2011年は11月末現在)

1956年	1960年	1965年	1970年	1990年	2000年	2005年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
6校	27校	22校	25校	21校	20校	19校	24校	61校	136校	237校	328校

日本のユネスコスクール一覧

2011年11月現在

幼稚園 (6校)

清泉幼稚園	北海道
湖畔幼稚園	北海道
気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県
奈良市立富雄北幼稚園	奈良県
奈良市立六条幼稚園	奈良県
鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県

小学校 (165校)

厚岸町立太田小学校	北海道
石狩市立生振小学校	北海道
恵庭市立松恵小学校	北海道
江別市立対雁小学校	北海道
千歳市立緑小学校	北海道
千歳市立末広小学校	北海道
北海道教育大学附属釧路小学校	北海道
斜里町立峰浜小学校	北海道
宮城教育大学附属小学校	宮城県
仙台市立中野小学校	宮城県
角田市立東根小学校	宮城県
気仙沼市立水梨小学校	宮城県
気仙沼市立浦島小学校	宮城県
気仙沼市立大島小学校	宮城県
気仙沼市立面瀬小学校	宮城県
気仙沼市立鹿折小学校	宮城県
気仙沼市立新城小学校	宮城県
気仙沼市立中井小学校	宮城県
気仙沼市立白山小学校	宮城県
気仙沼市立階上小学校	宮城県
気仙沼市立松岩小学校	宮城県
気仙沼市立月立小学校	宮城県
気仙沼市立落合小学校	宮城県
気仙沼市立唐桑小学校	宮城県
気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県
気仙沼市立南気仙沼小学校	宮城県
気仙沼市立九条小学校	宮城県
気仙沼市立小原木小学校	宮城県
気仙沼市立馬籠小学校	宮城県
気仙沼市立津谷小学校	宮城県
気仙沼市立大谷小学校	宮城県
栗原市立高清水小学校	宮城県
白石市立白石第二小学校	宮城県
白石市立白川小学校	宮城県
白石市立小原小学校	宮城県
富谷町立日吉台小学校	宮城県
丸森町立金山小学校	宮城県
新庄市立北辰小学校	山形県
新庄市立新庄小学校	山形県
新庄市立沼田小学校	山形県
高崎市立六郷小学校	群馬県

前橋市立大胡東小学校	群馬県
熊谷市立久下小学校	埼玉県
熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県
市川市立中山小学校	千葉県
市川市立稲越小学校	千葉県
市川市立鶴指小学校	千葉県
市川市立大野小学校	千葉県
葛飾区立青戸小学校	東京都
江東区立東雲小学校	東京都
江東区立八名川小学校	東京都
新宿区立西戸山小学校	東京都
東京学芸大学附属大泉小学校	東京都
目黒区立五本木小学校	東京都
小笠原村立小笠原小学校	東京都
小笠原村立母島小学校	東京都
多摩市立永山小学校	東京都
多摩市立西落合小学校	東京都
多摩市立貝取小学校	東京都
多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都
多摩市立北諏訪小学校	東京都
多摩市立南鶴牧小学校	東京都
多摩市立東寺方小学校	東京都
多摩市立多摩第二小学校	東京都
多摩市立多摩第三小学校	東京都
多摩市立東愛宕小学校	東京都
多摩市立連光寺小学校	東京都
多摩市立大松台小学校	東京都
調布市立布田小学校	東京都
横浜市立永田台小学校	神奈川県
新潟市立下山小学校	新潟県
新潟市立上山小学校	新潟県
柏崎市立北鯖石小学校	新潟県
佐渡市立相川小学校	新潟県
十日町市立飛渡第一小学校	新潟県
見附市立見附小学校	新潟県
見附市立田井小学校	新潟県
見附市立上北谷小学校	新潟県
見附市立見附第二小学校	新潟県
富山市立中央小学校	富山県
富山市立寒江小学校	富山県
富山市立五福小学校	富山県
氷見市立朝日丘小学校	富山県
金沢市立浅野川小学校	石川県
金沢市立朝日小学校	石川県
金沢市立金石町小学校	石川県
金沢市立材木町小学校	石川県
金沢市立四十万小学校	石川県
金沢市立田上小学校	石川県
金沢市立戸板小学校	石川県
金沢市立野町小学校	石川県
金沢市立森山町小学校	石川県
金沢市立弥生小学校	石川県

(小学校続き)

金沢市立中央小学校	石川県
金沢市立花園小学校	石川県
金沢市立鞍月小学校	石川県
金沢市立三馬小学校	石川県
金沢市立味噌蔵町小学校	石川県
金沢市立三谷小学校	石川県
金沢市立長坂台小学校	石川県
金沢市立西小学校	石川県
金沢市立大野町小学校	石川県
金沢市立押野小学校	石川県
金沢市立内川小学校	石川県
金沢市立湯湧小学校	石川県
金沢市立十一屋小学校	石川県
金沢市立明成小学校	石川県
金沢市立千坂小学校	石川県
金沢市立夕日寺小学校	石川県
金沢市立粟崎小学校	石川県
金沢市立犀川小学校	石川県
金沢市立南小立野小学校	石川県
金沢市立伏見台小学校	石川県
金沢市立扇台小学校	石川県
内灘町立向粟崎小学校	石川県
内灘町立清湖小学校	石川県
内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県
内灘町立大根布小学校	石川県
内灘町立西荒屋小学校	石川県
能美市立粟生小学校	石川県
坂井市立鳴鹿小学校	福井県
南アルプス市立芦安小学校	山梨県
岐阜市立島小学校	岐阜県
東浦町立緒川小学校	愛知県
鈴鹿市立飯野小学校	三重県
鈴鹿市立神戸小学校	三重県
鈴鹿市立牧田小学校	三重県
京都市立上賀茂小学校	京都府
京都市立乾隆小学校	京都府
京都市立紫竹小学校	京都府
豊中市立上野小学校	大阪府
豊中市立新田小学校	大阪府
豊中市立桜井谷小学校	大阪府
松原市立三宅小学校	大阪府
松原市立恵我南小学校	大阪府
奈良市立飛鳥小学校	奈良県
奈良市立帯解小学校	奈良県
奈良市立济美小学校	奈良県
奈良市立佐保川小学校	奈良県
奈良市立椿井小学校	奈良県
奈良市立鳥見小学校	奈良県
奈良市立二名小学校	奈良県
奈良市立佐保小学校	奈良県
奈良市立鼓阪小学校	奈良県

奈良市立济美南小学校	奈良県
奈良市立鶴舞小学校	奈良県
奈良市立都跡小学校	奈良県
橿原市立今井小学校	奈良県
和歌山市立広瀬小学校	和歌山県
田辺市立三栖小学校	和歌山県
矢掛町立三谷小学校	岡山県
矢掛町立中川小学校	岡山県
広島大学附属小学校	広島県
大竹市立栗谷小学校	広島県
海田町立海田東小学校	広島県
北広島町立豊平東小学校	広島県
北広島町立新庄小学校	広島県
福山市立内海小学校	広島県
福山市立駅家西小学校	広島県
松山市立新玉小学校	愛媛県
大牟田市立駿馬南小学校	福岡県
大牟田市立駿馬北小学校	福岡県
大牟田市立笹原小学校	福岡県
玄海町立有徳小学校	佐賀県
玄海町立値賀小学校	佐賀県

中学校 (75校)

札幌市立手稲西中学校	北海道
北海道教育大学附属札幌中学校	北海道
仙台市立南吉成中学校	宮城県
岩沼市立岩沼中学校	宮城県
大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県
角田市立角田中学校	宮城県
気仙沼市立面瀬中学校	宮城県
気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県
気仙沼市立鹿折中学校	宮城県
気仙沼市立階上中学校	宮城県
気仙沼市立新月中学校	宮城県
気仙沼市立唐桑中学校	宮城県
気仙沼市立大島中学校	宮城県
気仙沼市立条南中学校	宮城県
気仙沼市立小原木中学校	宮城県
気仙沼市立松岩中学校	宮城県
気仙沼市立大谷中学校	宮城県
気仙沼市立津谷中学校	宮城県
白石市立小原中学校	宮城県
白石市立白川中学校	宮城県
白石市立東中学校	宮城県
白石市立南中学校	宮城県
丸森町立丸森東中学校	宮城県
大仙市立大曲南中学校	秋田県
新庄市新庄中学校	山形県
宇都宮市立一条中学校	栃木県
越谷市立富士中学校	埼玉県
大田区立大森第六中学校	東京都

(中学校続き)

多摩市立東愛宕中学校	東京都
多摩市立諏訪中学校	東京都
多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都
多摩市立多摩中学校	東京都
多摩市立和田中学校	東京都
多摩市立青陵中学校	東京都
新潟市立巻東中学校	新潟県
新潟市立白新中学校	新潟県
新潟市立横越中学校	新潟県
新潟市立赤塚中学校	新潟県
長岡市立南中学校	新潟県
新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県
南魚沼市立大巻中学校	新潟県
富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県
金沢市立紫錦台中学校	石川県
金沢市立泉中学校	石川県
金沢市立芝原中学校	石川県
金沢市立内川中学校	石川県
七尾市立能登島中学校	石川県
七尾市立朝日中学校	石川県
南アルプス市立芦安中学校	山梨県
信州大学教育学部附属松本中学校	長野県
伊豆市立天城中学校	静岡県
静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県
鈴鹿市立神戸中学校	三重県
鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県
東近江市立五個荘中学校	滋賀県
豊中市立第十一中学校	大阪府
寝屋川市立寝屋川第十中学校	大阪府
松原市立松原第七中学校	大阪府
奈良教育大学附属中学校	奈良県
奈良市立興東中学校	奈良県
奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県
奈良市立三笠中学校	奈良県
奈良市立柳生中学校	奈良県
奈良市立平城西中学校	奈良県
奈良市立二名中学校	奈良県
奈良市立都南中学校	奈良県
奈良市立京西中学校	奈良県
奈良市立富雄中学校	奈良県
橿原市立畝傍中学校	奈良県
和歌山市立伏虎中学校	和歌山県
大竹市立栗谷中学校	広島県
山陽女学園中等部	広島県
如水館中学校	広島県
周南市立太華中学校	山口県
防府市立佐波中学校	山口県

中高一貫学校 (15校)

北海道登別明日中等教育学校	北海道
宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県
仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県
茨城県立並木中等教育学校	茨城県
渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県
雙葉中学校・高等学校	東京都
東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都
武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都
新潟県立燕中等教育学校	新潟県
星陵中学校・高等学校	静岡県
名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県
浪速中学校・高等学校	大阪府
大阪学芸中等教育学校	大阪府
奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県
広島県立広島中学・高等学校	広島県

高等学校 (54校)

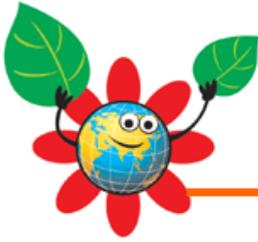
市立札幌大通高等学校	北海道
北海道遠軽高等学校	北海道
北海道清里高等学校	北海道
北海道斜里高等学校	北海道
海星学院高等学校	北海道
北海道礼文高等学校	北海道
盛岡中央高等学校	岩手県
宮城県気仙沼高等学校	宮城県
宮城県気仙沼西高等学校	宮城県
秋田市立秋田商業高等学校	秋田県
明桜高等学校	秋田県
国際学院高等学校	埼玉県
筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県
千葉県立市川昂高等学校	千葉県
市原中央高等学校	千葉県
千葉県立佐倉南高等学校	千葉県
渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都
筑波大学附属駒場高等学校	東京都
東京都立三田高等学校	東京都
八王子高等学校	東京都
神奈川県立有馬高等学校	神奈川県
新潟県立国際情報高等学校	新潟県
中部大学第一高等学校	愛知県
大阪府立北淀高等学校	大阪府
大阪府立住吉高等学校	大阪府
明浄学院高等学校	大阪府
大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府
大阪府立長野高等学校	大阪府
羽衣学園高等学校	大阪府
大阪府立能勢高等学校	大阪府
大阪府立枚方高等学校	大阪府
大阪府立松原高等学校	大阪府
神戸市立葺合高等学校	兵庫県

(高等学校続き)	
奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県
和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県
岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県
岡山学芸館高等学校	岡山県
岡山龍谷高等学校	岡山県
岡山県立矢掛高等学校	岡山県
岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県
広島大学附属高等学校	広島県
広島県立広島国泰寺高等学校	広島県
広島県立広島井口高等学校	広島県
山陽高等学校	広島県
広島県立尾道北高等学校	広島県
広島県立呉三津田高等学校	広島県
山陽女学園高等部	広島県
広島県立福山誠之館高等学校	広島県
広島県立安芸府中高等学校	広島県
如水館高等学校	広島県
広島県立三次高等学校	広島県
愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県
福岡県立城南高等学校	福岡県
福岡県立武蔵台高等学校	福岡県

大学 (4校)	
国立大学法人宮城教育大学	宮城県
玉川大学 (教育学部)	東京都
国立大学法人三重大学	三重県
国立大学法人奈良教育大学	奈良県

特別支援学校 (1校)	
見附市立見附特別支援学校	新潟県

そのほか (8校)	
練馬和光保育園	東京都
斜里町立ウトロ小中学校	北海道
釧路市立山花小中学校	北海道
東京都足立区興本扇学園	東京都
東京賢治シュタイナー学園	東京都
横浜シュタイナー学園	神奈川県
奈良市田原小中学校	奈良県
京田辺シュタイナー学校	京都府



14. 企業の皆さまへ

持続発展教育(ESD)は、学校教育のみならず、企業、地域、NPOなどあらゆる実施主体が協働することで、より大きな変革をもたらします。これまでも様々な企業において、社会貢献活動の一環として、環境教育等多くの取組がなされていますが、これらの活動をESDとしてつなげ、より大きな力とするためにご協力いただきたいと思います。

ご協力の方法（例）

- “ESD応援ロゴ” の使用（企業活動を通じたESDの普及啓発）
広告やパンフレット、ウェブページ、商品等への掲載

<ESDロゴマーク>



私たちはESDを応援しています。

ESDは持続可能な社会づくりを目指す活動です

(ESD: Education for Sustainable Development)

- 社会貢献活動を通じたESDやユネスコスクール活動の支援
 - ・ 講師派遣による出前授業の実施
 - ・ 教材の提供
 - ・ イベントの開催

- ユネスコスクールへの支援事業 など



ご協力いただいている企業（例）

- 三菱東京UFJ銀行
- カシオ計算機
- 日本通運
- P&Gジャパン
- リッチェル
- サンウエーブリフォームショップR&B
- 積水ハウス
- 全国農業協同組合連合会
- ダノンウォーターズオブジャパン
など



15. 参考教材・資料

【参考教材】

- 「ぐるぐる＝ESDって何だろう＝」
http://www.unesco-school.jp/?action=common_download_main&upload_id=4917
種類：コミック
作成：渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭 北原りゅうじ
- 「守ろう地球のたからもの ～持続可能な社会を目指して～」
(豊かな自然編、豊かな世界遺産編)
種類：小学校～高等学校用教材
作成：日本ユネスコ協会連盟 協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ
- 『ESD教材活用ガイドー持続可能な未来への希望』
http://www.unesco-school.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=91
種類：取組事例集・解説
作成：ユネスコ・アジア文化センター
- 『ひろがり つながる ESD実践事例48』
http://www.unesco-school.jp/?page_id=599
種類：取組事例集
作成：ユネスコ・アジア文化センター
- 「持続可能な社会を担う児童・生徒の育成をめざして」
種類：取組事例集
作成：宮城教育大学、気仙沼市教育委員会、気仙沼市立学校教頭会

【その他参考となるウェブサイト】

- ・ 国立教育政策研究所：<http://www.nier.go.jp/>
- ・ +ESD：<http://www.p-esd.go.jp/top.html>
- ・ 環境省（ESDの10年促進事業）：<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html>
- ・ ESD-J：<http://www.esd-j.org/>
- ・ ジャパンアートマイル：<http://www.artmile.jp/>（絵画を通じての国際交流）
- ・ 日本国際理解教育学会：<http://www.kokusairikai.com/>
- ・ 日本持続発展教育推進フォーラム：<http://www.jp-esd.org/>
- ・ EICネット（環境情報案内・交流サイト）：<http://www.eic.or.jp/>
- ・ JICA地球広場：<http://www.jica.go.jp/hiroba/>
- ・ 立教大学ESD研究センター：
<http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/index2.html>



2008年 6月作成
2012年 1月改訂

【問い合わせ先】

文部科学省国際統括官付（日本ユネスコ国内委員会事務局）

電話：03 - 5253 - 4111（内線3402 2602）

FAX：03 - 6734 - 3679

所在地：東京都千代田区霞ヶ関3 - 2 - 2

ホームページ：<http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

メールアドレス：jpnatcom@mext.go.jp